

地元地域とのつながり

～能動的な地域貢献と環境問題への取り組みを
通して地域とともに歩み続けます～

◆ 発電所資源の地域活用

福島県水産資源研究所への温海水供給

福島県水産資源研究所は、震災・原発事故により甚大な被害を受けた福島県の沿岸漁業の再生に向け、県産種苗による栽培漁業の再開及び資源管理の高度化など新たな研究課題に対応するため2018年6月に設置されました。

本研究所に隣接する新地発電所では、タービンを回し終えた蒸気を再び水に戻し再利用するため海水を取り込んで蒸気を冷却し、熱交換により温度の上昇した「温海水」を海へ放流しています。

当社は、2019年2月より、この「温海水」を本研究所へ向けて供給を開始し、循環型社会形成に向けて取り組んでおります。



〈ヒラメ〉



〈アワビ〉



〈アユ〉

〈生産能力〉

- ・ヒラメ …… 100mmサイズ
(100万尾規模)
- ・アワビ …… 30mmサイズ
(100万個規模)
- ・アユ …… 60mmサイズ
(300万個規模)

◆ 発電所資源の地域活用

福島県水産資源研究所への温海水供給

【ヒラメ・アユ稚魚飼育棟】



【魚類棟】



•福島県水産資源研究所より

「当施設の特徴は、供給を受けた温海水をヒラメなど放流種苗の飼育に利用することで、成長を早め、健康的に育てることができる点にあり、温海水が栽培漁業の推進、漁業復興に役立っています。

また、飼育水を加温するボイラーの燃料使用量を削減できるメリットがあり、資源利用効率の向上が図られ、SDGsの目標9に貢献しています。

◆ 発電所資源の地域活用

新地町海釣り公園

新地発電所の放水口付近(5号埠頭北側)は、「温海水」が海へ放流されることにより、大きな魚が集まり易いことから、新地町海釣り公園が設置されました。

同公園は、連日大勢の釣り客で賑わっており、地域の観光振興の一助となっております。

・管理者様より

「夏から秋は、ヒラマサ、カンパチ、サバ、イナダなどの青物が良いようです。青物は温海水の渦に群れていて、渦はかなりの激流のため事前準備が必要です。また、青物は釣果に大きな波があるため、釣り計画は、「釣果情報」が頼りになります。秋から冬は、アイナメ、ヒラメなどの底物が狙い目です。」



新地町海釣り公園
福島県相馬郡新地町今泉(相馬港5号埠頭)
管理棟:0244-62-5559 出典:新地町HP

◆ 発電所資源の地域活用

石炭灰の有効活用

当社は、新地発電所から排出される石炭灰(フライアッシュ・クリンカアッシュ)を土木資材等に有効活用し、循環型社会形成に向けて取り組んでおります。

〈有効活用される石炭灰〉

2024年8月31日現在

- | | | | |
|--|---|---|---|
| ▶ フライアッシュ
▶ クリンカアッシュ | } ・相馬市産業廃棄物処分場の土地造成材
} ・セメントの原料
} ・FRC採石の原料(※1)
} ・炭坑採掘後の埋戻材 など |  |  |
| ▶ 有価クリンカ
(実績: 151, 403トン) | } ・土地造成材、埋戻材、道路用資材、グラウンド中層材他
} 〈活用先〉相馬市光陽パークゴルフ場・サッカー場、
相馬市海岸線復旧工事、常磐道建設工事、
新地町防災緑地工事 など | | |
| ▶ アッシュクリート
「AC-II(※2)、AC-S」
(実績: 147, 361トン) | } ・東日本大震災の復旧復興工事の土木資材
} 〈活用先〉新地町防災緑地盛土資材、県道相馬亘理線
路体盛土資材、浪江町焼却施設整備工事、
外並田地区宅地造成工事 | | |

※1 フライアッシュ、クリンカアッシュに水とセメントを混合した土木資材。福島FRC製造事業所が製造・販売。

※2 AC-IIはフライアッシュに水とセメントを混合した土木資材。AC-SはAC-IIを破砕した土木資材。
2015年7月～2017年3月まで当社で製造・販売。(現在は製造・販売していません)

◆ 発電所資源の地域活用

工事状況

〈有価クリンカ〉



〈相馬市光陽サッカー場〉



〈新地町防災緑地〉



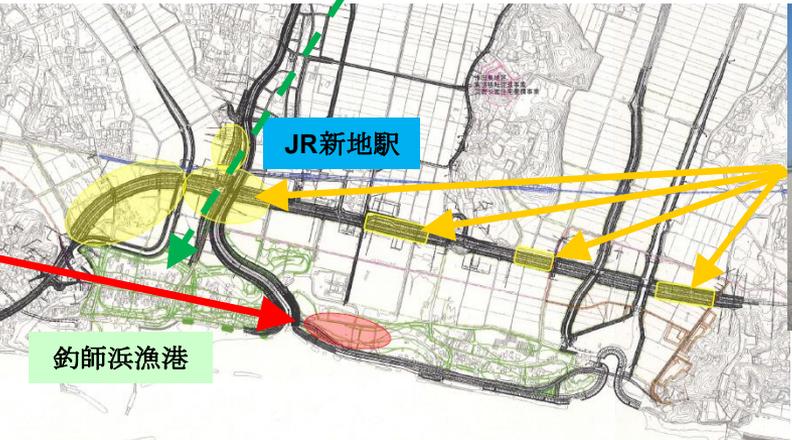
〈蒲庭地区防波堤背面部〉

〈AC-II・AC-S〉



〈新地町防災緑地〉

AC-II活用



〈県道相馬亙理線〉

AC-S活用

◆ 発電所設備の地域利用

新地発電所ヘリポートのドクターヘリ・消防防災ヘリ利用

当社新地発電所では、地震発生時の危機管理や防災機能強化の一環として、大規模災害により主要道路が遮断された場合の資機材の輸送、および救急患者の搬送などを目的に発電所構内にヘリポートを設置しています。

これまでも、地域の救急搬送時のヘリポートとして活用されています。

- ・ドクターヘリ（利用開始:2009年3月）
- ・消防防災ヘリ(利用開始:2019年12月)

福島県消防防災ヘリコプター「ふくしま」
型式:AW139型(写真提供:新地分署)

・相馬消防署新地分署より

『2019年12月より導入された消防防災ヘリ「ふくしま」(写真)は、旧型よりひとまわり大きく、またタイヤ型のため、離発着の場所選定に苦勞しています。現在、町内で条件を満たしているのは、新地発電所ヘリポートのみです。

一方、ドクターヘリの離発着は、新地分署(駐車場)、総合運動公園(みんなの広場)、新地発電所ヘリポートが指定場所となっています。』



◆ 発電所設備の地域利用

ふれあい施設「わくわくランド」

「わくわくランド」は、エネルギーと人をむすぶ発電所隣接の“ふれあい施設”です。緑の芝生、さわやかな潮風と、子どもたちの笑い声。駐車場を完備しており、出入りは自由となっています。

新地発電所では、ご来館の皆さまに、エネルギーが生み出されるしくみをご理解いただきながら、ご家族そろっての楽しい一日をすごしていただける自由な空間づくりを目指して運営しています。



わくわくランドに展示しているタービンロータ

・「新地発電所蒸気タービン」展示

「わくわくランド」敷地内には、1995年から約25年間にわたり新地発電所第2号機の蒸気タービンとして使用した、中圧タービンロータを展示しております。

※展示されている中圧タービンロータは、1995年7月から約17万時間にわたり使用されました。

(重さ:約29トン、全長:7.7m)

◆ 地域の祭りへの参加

相馬野馬追祭「お行列」参加

国の重要無形民俗文化財である「相馬野馬追祭」は、戦国時代のその昔から一千有余年の歴史を誇る日本を代表する伝統文化行事です。

また、先祖伝来の甲冑に身を固めた約400騎の騎馬武者が出場し勇壮華麗にして豪華絢爛に繰り広げられる「相馬野馬追祭」は、世界一の馬の祭典とも言われております。

当社では、相馬野馬追祭の「お行列」に相馬中村神社の渡御係(とぎよがかり)として、毎年参加しています。(2日間で延べ60名)



・「お行列」参加の社員より

国の重要無形民俗文化財である「相馬野馬追祭」に参加できることは、大変誇りに感じています。また、楽しく参加させて頂いております。」

・「騎馬武者」出陣の社員より

千年続いた文化を”正しく正確に未来に繋げる”ことが、出陣する者の責務と考えています。

騎馬武者は決して一人では参加できません。家族をはじめ御支援頂いている全ての関係者(馬含)に対し、感謝の気持ちを第一に出陣しています。

◆ 地域の祭りへの参加

そうま市民まつり・新地町ふるさと産業まつり

当社では、相馬市や新地町の地域産業展の機会を捉え、積極的に企業ブースを出展しております。

出展会場では、当社事業ならびに環境保全への取り組みについての説明や新地発電所に関するクイズを通じて、来場された皆さまへの理解浸透を図っております。

また、来場された皆さまとのコミュニケーションを通じて、地域に根ざした企業を目指しております。



〈そうま市民まつり〉



〈そうま市民まつり〉



〈新地町ふるさと産業まつり〉

◆ 地域教育支援

エネルギー・環境講座

当社では、未来を担う次世代層の教育支援活動として、新地発電所近隣の小学校（5・6年生）および中学校（1年生）を対象とした、「エネルギー・環境講座」を開催しています。

本講座では、「当社事業内容、新地発電所の必要性、エネルギー・環境の大切さ、発電の仕組み等」について学んでいただくと共に、水質実験や新地発電所見学を通じて更に理解を深めていただきます。

また、学校からの依頼により、キャリア教育を併せて実施しております。

* 2024年度は、相馬市立中村第二小学校6年生57名が出前講座で受講。



環境学習教室

当社では、未来を担う次世代層の教育支援活動として、新地発電所近隣の小学校を対象とした「環境学習教室」を相馬市内の松川浦環境公園において開催しています。

環境学習教室は例年6月の環境月間に実施され、子供たちに水の大切さを学んでいただくと共に、花苗植栽を通じて花や土と触れ合っていただきます。
(2024年6月実施、参加43名、花苗1,000ポット)



・相馬市立中村第二小学校より

「環境学習教室からの帰校後、これまでの本教室終了後と同様に、子供たちが水を大切に使用する姿が多く見られるようになったと共に、素直な気持ちを出したりする姿が数多く見られました。

また、積極的に取り組む子供たちが多く見られるようになったと感じております。」

キャリア教育

当社は、福島県立相馬高等学校や相馬市立中村第二中学校等が進路学習として開催する「職業講話」へ社員を講師として派遣し、キャリア教育を行っております。
(実施年度:2022年、2023年)

【講話内容】

- ・当社の使命、事業内容
- ・当社社員はエッセンシャルワーカー
- ・仕事に対するやりがい
- ・当社が求める人材
- ・これからの行動
- ・高校時代や大学時代にやっておきたいこと

〈生徒からの感想〉 * 一部抜粋

実際に講話を聴くことで、自分の将来に向けて様々なことを学ぶことができました。
仕事についてお話いただいたことで、環境に良く、安定して発電できる新たなエネルギーや火力発電のより環境への負荷を減らす方法について、もっと考えてみたいと思いました。
今回学んだことを活かして、自分の将来について真剣に考えて行きたいと思います。

職場体験

新地発電所では、職業意識の向上および職業選択に役立つ経験の提供を目的として、職場体験の受入を随時実施しています。

* 2024年度は、小高産業技術高校2年生1名、新地町立尚英中学校2年生4名を受け入れました。



〈講義〉



〈化学分析業務体験〉



〈浸透探傷試験体験〉



〈送運炭設備操作体験〉

◆ 地域教育支援

福島イノベーションコースト構想を担う人材育成に向けた キャリア教育プログラム

福島県立相馬高等学校・福島県教育委員会主催により開催された「福島イノベーションコースト構想を担う人材育成に向けたキャリア教育プログラム」において、当社では福島県立相馬高等学校2年生 20名を受け入れ、当社事業について理解を深めていただきました。（実施年度：2023年）

〈開催目的〉

地元の企業や研究施設の見学を通して、相双地区の取り組み状況を知ることによって地域理解を深め、将来の有為な人材を育成することに寄与する。





『チーム相馬共火』 **七転八起**で頑張るぞ!!

400年以上の歴史を持つ会津地方の伝統工芸品「起き上がり小法師」